

成田
歴史
玉手箱

●25回●

歴史と伝統文化の
まち・成田。市内に
は、歴史ある文化財
が多数あります。

子どもたちの夏祭り

5メートルもの御神木を担ぎ、田園地帯を練り歩く

昨年のオタチ担ぎ（日暮尚生氏所蔵）



子どもたちが「ワッショイ、ワッショイ」と威勢のよい掛け声と歌を歌いながら、各家を練り歩くオタチ（御太刀）。毎年7月11・12日、北羽鳥北部で行われる八坂神社の祇園祭で、天王様（神輿）の露払いの意味をもつ行事として、11日に北部地区の小学生と中学生の男子によって行われています。

オタチは、約5mの刀の形をした御神木で、これを担いで北羽鳥北部120戸弱の家々をすべて回り、災難よけ・悪魔払いなどを願うものです。地元の長老の話では江戸時代末期の天保年間（今から160～170年前）八坂神社に奉納されたと伝えられていますが、文献などはなくはつきりした起源は分かりません。

現在では、祭りの約1カ月前から太鼓や歌の練習などの準備が始められます。これらの準備や当日の役割分担などは、すべて「親方」と呼ばれる最も早く生まれた中学3年生が仕切り、下級生に指示を出します。大人はそっと見守るだけで口は出しません。

昔は、神輿を安置していた八坂神社（現在の豊住小学校脇）のある坂道に階段をつくったり、御飯屋（北部共同利用施設の前に神輿とオタチを安置する場所）に使うススキ刈りなども子どもたちの仕事でした。特に階段づくりは大変な仕事で、「パーンパーン」と板で土をたたく音が聞こえると「祇園の季節がやってきたな」と感じたそうです。

11日の夕方になると、子どもたちは白のTシャツ・スポンにピンクのはちまきを締め、共同利用施設

に集合し、親方の合図で出発します。先頭を歩くのは小学校高学年の太鼓、次に小学校低学年が金銀の幣束や提灯を持ち、オタチは中学生が担ぎます。家に着くと、庭先でぐるぐるともみ合った後、オタチを玄関先に下ろします。そして、幣束を持った子どもが家の人をおはらいし、ことし1年の幸せを祈り次の家に向かいます。すべての家を回り終わると、オタチを御飯屋に収め、行事は終了します。

利根川・印旛沼沿岸地域でよく見られたオタチ担ぎは、年々子どもの数が減り、現在では北羽鳥北部のほか、竜台・北須賀・芝・大室などで見られるだけで、随分と少なくなりました。しかし、この伝統行事は、北羽鳥北部の子どもたちが今も楽しみにしている祭りであり、元気な子どもたちの声や太鼓の音が響きわたる夏の風物詩です。



楽しそうに笑顔で家々を回る子どもたち（昭和43年7月11日、松室清一郎氏所蔵）



昭和5年まで使われた先代のオタチ。表に「昭和五年 歴六月十二日執行」、裏に「八坂神社御祭禮」とある

編集後記

カレンダーを見ていると、「〇〇記念日」や「〇〇の日」というのが多いことに驚きます。中には業界が勝手に決めたようなものも。ところで、6月18日は「成田市文化財保護デー」です。昭和40年のこの日、新勝寺第一額堂（1821年建

造）が放火により焼失。七代目市川團十郎の石像や自筆の額などが失われました。『保護デー』は、この事件をきっかけに定められたものですが、多くの貴重な文化財をもつ本市にとっては忘れてはならない「日」です。